愛媛大学教育学部紀要　教育科学　第47巻　第2号　25～29　2001

親の養育態度と子どもの性格形成に関する研究

佐　藤　公　代
（教育心理学教室）

（平成12年10月19日受理）

Study on the Relation of Parents nurse Attitude and Character Formation

Kimiyo SATOU

（問題と目的）

最近，子どもの犯罪について，いろいろなことが報道されている。その解明にあたって，親子の関係など家族のことが話題にされる。また，子どもの性格の問題なども要因分析となる。

性格の定義については，「個人の内部における本質」を定義づけたオールポート，マッキンノン，「個人の実際における行動パターン」を定義づけたアイゼンク，宮城音弥，祖父井孝男があげられる。

性格形成の説として，宮城音弥，文化人類学者のホワイテイングと社会心理学者のチャイルド，吾妻洋，柏木繁男，フロイトの説をまとめると，「家族の対応，親の養育，育児が，重要視される要因」である。

本論では，子ども自身が親の養育態度をどのようなものと認識しているか，子どもの性格特徴の分類とどのようにかかわるか，を調査する。なお，結果として，従来の検査の妥当性，信頼性の確認も行うことになる。

仮説は次の通りである。

（1）親が子どもを情緒的に支持しようとすれば，その子どもは情緒的に安定するだろう。

（2）親が子どもを統制しようとすれば，その子どもは反抗的になり，客観性や協調性に欠けるだろう。

（3）親が子どもの自立性を認めようとすれば，その子どもは主導性が高まり，指導力や社交性が養われるだろう。

（4）仮説1，2，3のいずれにおいても男子より女子の方に強い関連性を見いだせるだろう。

(方　　法)

1）調査対象：E 大学大学生315名（男子110名，女子205名）
2）調査期間：1999年７月２－９日
3）質問紙の構成：フエイスシートに続き，下記の３つの内容調査をする。
（1）親子関係調査：辻岡・山本（1975）の作成した EICA より40項目を採用し，３件法で，子どもに対する親の養育態度・行動について子どもからの報告という形で，回答を求める。
（2）Y. G 性格検査：矢田部ら（1957）が作成した Y. G 性格検査一般用における12種類の性格特徴のうち，それぞれ各５項目ずつ計60項目を採用し，３件法で回答を求める。
（3）東大式エゴグラム：石川ら（1984）が作成した東大式エゴグラムにおける６種類の性格特徴のうち，それぞれ各10項目ずつ計60項目を採用し，３件法で回答を求める。

(結果と考察)

親子関係調査40項目からは，因子分析（主因子法，バリマックス回転）の結果，第１因子「統制」(α=.85)，第２因子「情緒的支持」(α=.78)，第３因子「自立性」(α=.80)，の３因子を抽出した。

Y. G 性格検査60項目からは，因子分析（主因子法，バリマックス回転）の結果，第１因子「回帰性傾向」(α=.82)，第２因子「社交性」(α=.82)，第３因子「社会的外向性」(α=.69)，第４因子「思考的外向性」(α=.74)，の４因子を抽出した。

東大式エゴグラム60項目からは，因子分析（主因子法，バリマックス回転）の結果，第１因子「合理的・理論的」(α=.74) 第２因子「独断性」(α=.72)，第３因子「天真爛漫」(α=.79)，第４因子「遠慮しがち」(α=.74)，第５因子「世話好きで寛大」(α=.72)，の５因子を抽出した。

Table 1 に親子関係調査３因子を独立変数とし，Y. G 性格検査４因子を従属変数として重回帰分析を行った結果を示す。

Table. 1　Y. G 性格検査の４因子に関する重回帰分析（N=315）

			親子関係調査		
Y. G	R^2	F	統制 (β)	情緒的支持 (β)	自立性 (β)
回帰性傾向	0.33	3.491*	.180**		
社交性					
社会的外向性	0.028	2.968*		.143*	
思考的外向性					

P<.05*，P<.01**

Table 1 から，「統制」が「回帰性傾向」に，また，「情緒的支持」が「社会的外向性」に，正の影響を及ぼしている。「回帰性傾向」は気分の変わりやすさや驚きやすさなど，感情，情

緒面の不安定さを表す因子で，客観性や協調性の欠如を意味している。よって，仮説（2）は支持される。「社会的外向性」は，社交性など，社会的行動面の適応度を表す因子である。この社会への適応は情緒的な安定の上で成り立つと考える。よって，仮説（1）は支持される。

Table 2 に親子関係調査3因子を独立変数とし，東大式エゴグラム5因子を従属変数として，重回帰分析を行った結果を示す。

Table. 2　東大式エゴグラムの4因子に関する重回帰分析（N=315）

			親子関係調査		
TEG	R^2	F	統制（β）	情緒的支持（β）	自立性（β）
合理的・理論的 独断性 天真爛漫 遠慮しがち 世話好きで寛大	0.037	3.934**	.164**		

P<.05*，P<.01**

Table 2 から，「統制」が「遠慮しがち」に正の影響を及ぼしていることがわかる。「遠慮しがち」は自主性に乏しく自己を否定しがちな状態を表す因子で，親が子どもを統制しようとすれば，逆に子どもは反抗的になる，という仮説（2）は支持されない。

親子関係調査40項目について因子分析の結果，男子では，第1因子「統制」（α=.85），第2因子「情緒的支持」（α=.76），第3因子「自立性」（α=.82），女子では，第1因子「統制」（α=.87），第2因子「情緒的支持」（α=.80），第3因子「自立性」（α=.72），の3因子を抽出した。

Y. G 性格検査60項目について因子分析の結果，男子では，第1因子「社交性」（α=.86），第2因子「回帰性傾向」（α=.75），第3因子「社会的外向性」（α=.64），第4因子「思考的外向性」（α=.65），女子では，第1因子「社交性」（α=.84），第2因子「思考的外向性」（α=.80），第3因子「回帰性傾向」（α=.79），第4因子「社会的外向性」（α=.74），の4因子を抽出した。

東大式エゴグラム60項目について因子分析の結果，男子では，第1因子「天真爛漫」（α=.81），第2因子「遠慮しがち」（α=.69），第3因子「独断性」（α=.65），の3因子，女子では，第1因子「遠慮しがち」（α=.81），第2因子「独断性」（α=.72），第3因子「世話好きで寛大」（α=.74），第4因子「天真爛漫」（α=.76），第5因子「合理的．理論的」（α=.56），の5因子を抽出した。 Table 3，4 に親子関係調査（男子，女子とも3因子）を独立変数とし，Y. G 性格検査（男子，女子とも4因子）を従属変数として重回帰分析の結果を示す。

Table 3 から，男子については，「統制」が「回帰性傾向」に，「自立性」が「回帰性傾向」に正の影響を及ぼしていることがわかる。「回帰性傾向」は気分の変わりやすさや驚きやすさなど，感情，情緒面の不安定さを表す因子であり，客観性や協調性の欠如を意味していることから，仮説（2）は支持され，仮説（3）は支持されない。

Table 4 から，女子については，「情緒的支持」が「思考的外向性」に正の影響を及ぼして

Table. 3　Y. G 性格検査の4因子に関する重回帰分析　男子（N＝110）

			親子関係調査		
Y. G	R^2	F	統制（β）	情緒的支持（β）	自立性（β）
社交性					
回帰性傾向	0.142	5.856***	.396***		.200*
社会的外向性					
思考的外向性					

P<.05*，P<.01**，P<.005***

Table. 4　Y. G 性格検査の4因子に関する重回帰分析　女子（N＝205）

			親子関係調査		
Y. G	R^2	F	統制（β）	情緒的支持（β）	自立性（β）
社交性					
社会的外向性					
回帰性傾向					
思考的外向性	0.05	3.543*		.22**	

P<.05*，P<.01**

Table. 5　東大式エゴグラムの4因子に関する重回帰分析　女子（N＝205）

			親子関係調査		
TEG	R^2	F	統制（β）	情緒的支持（β）	自立性（β）
遠慮しがち					
独断性					
世話好きで寛大	0.036	2.467		.185*	
天真爛漫	.039*	2.704		.150*	
合理的・理論的					

P<.05*，P<.01**

いる。「思考的外向性」は，物事を深く考えるなどの反省的態度の反対で非熟慮的な態度を表す因子であることから，仮説（1）は支持されない。

Table 5 に親子関係調査（男子，女子とも3因子）を独立変数とし，東大式エゴグラム（男子：3因子，女子：5因子）を従属変数として重回帰分析を行った結果を示す。

男子においては，すべてに関連は見られないが，女子においては，Table 5 から，「情緒的支持」が「世話好きで寛大」に，そして，「天真爛漫」にも正の影響を及ぼしていることがわかる。「世話好きで寛大」は良心に従う，責任を持つなど自己の肯定を表す因子であることから，仮説（1）は支持される。「天真爛漫」は好奇心が強い，感情的である，など自己中心的な側面を持った因子であることから，仮説（1）は支持されない。

以上，項目によって，仮説の支持，不支持のあることがわかる。よって，仮説（4）は，一部支持される。

（結　　論）

親の養育態度と子どもの性格特徴との関連性はみられ，少なからず影響を及ぼしていることはわかる。

（今後の課題）

同性の親，異性の親による相違と関連させて調査する。

（参考文献）

柏木繁男　1997　性格の評価と表現　有斐閣
辻岡美延・山本吉廣　1976　親子関係診断尺度 EICA の作成　関西大学社会学部紀要第 7 巻第 2 号.
辻岡美延・矢田部達郎・薗原太郎　Y. G 性格検査　日本心理テスト研究所株式会社.
東京大学医学部心療内科　東大式エゴグラム　金子書房.

（注）

データ整理にかかわりました佐野昭子氏，被験者の皆様には，大変お世話になりました。深く感謝致します。